

「性教育」から「人間教育」へ
～スマホ時代における「人間教育」としての性教育～

1. 現状の「性教育」「性の意識」を取り巻く課題

- ・スマホ・ネットの普及による誤った性の情報（「アングラ情報」、娯楽としての性情報）の氾濫と、不十分な性教育（相手を思いやり良好な関係性を築く、自分の行動に責任を持つという観点が欠如）。
- ・幼少期から有害な情報が入手可能に。性教育が不十分だから、子供たちがアングラ情報を求める悪循環。
⇒相手も自分も傷つける性被害事例が多発。
- ・不十分な性教育の背景に、教育行政が、中高生を性行為を行う主体としてみなしていない点（「寝た子を起こさない」）。性の当事者意識を育てていないことが、不本意な妊娠、性感染症、DV、児童虐待、セクハラ等の問題の原因に。

2. 日本の性教育の問題

- ・生殖に関する内容に偏っている上に、教員でさえタブー視する傾向。
- ・性の問題に向き合う人々の意識（「思いやりを持つこと」「責任を持つこと」「間違った情報を切り捨てること」など）の涵養も不十分。

3. 現在みられる課題解決策とその問題点

- ・外部の講師（医師やNPO）による性教育の実施。
⇒依然として不十分（教育委員会や議会から「踏み込み過ぎ」批判）。
- ・同じ問題意識を持つ企業やNPO等による情報発信。
（例：花王《生理用品》子、親、教育関係者それぞれを対象とした情報、教材提供）
⇒ネットを通じた情報発信のため不正確な情報との区別が困難。

4. 課題解決策とその道筋

- ⇒ ①草の根での世論醸成
- ②性教育の課題化
- ③行政の改革

⇒国を挙げて性教育を刷新！

- ①「日本の性教育は世界水準に及んでいない」という世論の醸成のため、性教育に関する活動を行っているNPO・企業が連携した性教育改革組織「組み木連合」を結成。関心分野の偏りを均すと共に、大きな影響力を醸成。

(参考) 【ユネスコによる性教育の重要なキーコンセプト】

「関係性」「性的価値観と権利や文化」「性別への理解」
「暴力と暴力からの安全の確保」「健康と幸福」「人体と発達」
「セクシュアリティと性的行動」「性とリプロダクティブヘルス」
※日本では暴力に関わる団体が目立たない。

- ・ 加入団体が、ユネスコの「International Technical Guidance on Sexuality Education」に沿った e-learning (直接対面しなくて済むツール) コンテンツを作成、保護者、子供、学校に配信。マイナンバーと連携したID管理により発達段階に応じた情報公開が可能。
- ・ SDGsをモデルに、学校・保護者から官公庁、大企業へ普及。日本の職場における「男性に集中する過酷な負担／女性の軽視」の傾向が、性教育を通じた「お互いを思いやる関係性」の構築で解決。

- ②社会全体に性教育・性の意識の刷新という社会課題があることを認識させ、法律・条例整備と併せて実行力のある施策を行い、社会を変革。
⇒学校教育の指導内容の変更
⇒「ゼロ歳児検診」や予防接種時に、親として必要な最新の性教育の履修の義務化（自動車の運転免許更新をモデルに）

【私たちが実現したい社会】

- 「正しい性の知識が十分に手に入り、誤った情報を取捨選択するリテラシーがあり、自分の行動に責任を持ち、相手を思いやった関係を築ける社会」
- ・ 新しい取り組みを潰さないためにも「大人の再教育」が必要。

(作成：事務局)